

令和8年3月5日

## 令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	台東区立根岸幼稚園
所在地	台東区根岸3-9-7

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)

本園は園庭を持たないため、隣接する公園と小学校の校庭、農園を活用し、自然と関わる機会を意図的に設けている。園が管理する農園は、ビワや柿の果樹、そして四季折々の野菜や花を育て、ピオトープや豊かな自然体験に直接触れられる貴重な学びの場となっている。

講師の先生をお招きする公園での親子自然教室では、普段何気なく見ている身近な自然を通じた遊びや興味をもつことで、自然への探求心を高めたい。また、収穫した野菜や果実を仲間と一緒に調理して食べることで、種まきから収穫、調理、食べることへの喜びを感じ、健康な心と体への関心を高めたい。

自然に心を寄せ、見て触れて感じる様々な体験を通して、生命尊重の気持ちを育てていきたいと考え、テーマを設定をした。

### 2. 活動スケジュール

- ・農園の整備、農園の土作り、苗植え、水やり、収穫
- ・親子で野菜作り
- ・プランター及び鉢に栽培したい花を選んで植える、水やり、開花
- ・遠足でサツイモを収穫、学級でお芋パーティーを企画、調理、会食
- ・収穫した野菜、匂を感じる野菜を使った調理、会食

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・自然教室の講師の招聘
- ・土、肥料、苗、球根など
- ・自然物を取り入れた遊びの環境
- ・収穫したものを調理して食べることのできる環境
- ・農園の畑の整備とビオトープ作り
- ・身近な生き物を飼育できる環境

### 4. 探究活動の実績

#### <活動の内容>

- ・夏野菜の一人一鉢の苗植え、親子での日々の水やり、収穫、調理、食べる体験をする
- ・秋植え球根を一人一鉢行い、咲いた花を見て、部屋に飾ってみんなでお昼を食べたりする体験をする
- ・遠足でのサツイモの収穫後、学級でお芋パーティーを企画して調理してお店屋さんを開き、園のみんな  
で食べる
- ・収穫した野菜、匂を感じる野菜を使って、調理したり、一緒に食べたりする
- ・ビオトープを見たり、花や蝶を捕まえて観察したり、学級で生き物を飼育したりする

#### <活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

【3歳】夏野菜ではキュウリを学級で育て、みんなで収穫して食べる経験を楽しんだ。季節を感じられる農園にみんなで遊びに行くことで、草花や木々の変化に気付き、カキの実の色付きの変化や自然にできる氷にも触れることができた。冬は学級で「おおきなかぶ」の表現遊びをした後にはつかだいこんを育て、「うんとこしょ」と言いながら収穫することや、カブを洗ってきれいな赤色に変化すること、園のみんなですूपにして食べるうれしさを感じる事ができた。氷遊びでは初めて氷や霜柱に触れる幼児も多く、「冷たい」「きれい」と手が赤くなっても楽しみながら遊ぶ姿があった。育てているクロッカスが咲き毎日見て「昨日はお花咲いていたのに、雨でびちよびちよになったから、今日はキュって閉じているね」と、クロッカスの就眠運動を3歳児なりに発見する姿が見られ、雨の日のひなまつりパーティーでクロッカスを室内に入れ、囲んで昼食をとっていると、つぼみがだんだん開いていく様子が見られ、「私のお花咲いた」と喜ぶ姿につながった。

【4歳】季節に合わせて野菜や植物の種を蒔き、育てたことで、成長を楽しみにしながら自分から世話をする姿が見られるようになった。夏はピーマンやナス、秋はサトイモの収穫と調理を経験する中で自分で育てたものを自らの手で調理して食べる喜びを味わっていた。繰り返し関わる中で緑のピーマンと赤いピーマンの味の違いや包丁で切ったときの感触の違いに気付く姿につながった。教師が捕まえてきたカマキリを学級で育て、餌となる昆虫を農園で捕まえ、シジミチョウがカマキリに食べられる様子を見ながら、命の大切さを感じていた。

【5歳】新宿御苑で、多くの木の実や落ち葉などに実際に触れ、自然物への関心が高まった。翌日から自分たちのことを“自然探検隊”と名乗り、様々な自然物を集めてきては、名称や特徴を図鑑で調べたり、虫眼鏡で細部まで観察したりする遊びにつながった。観察する中でドングリに空いた穴に気付き、調べるとゾウムシの幼虫によるものだということが分かった。幼虫を一目みるため、ドングリを割ってみたり周囲を探しまわったりするなど、数日にわたり、学級の共通の目的として熱中する姿があった。幼虫に出会うことができると、愛着からなでたり手のひらにのせたりする姿も見られた。飛鳥山公園での自然教室では、講師の先生に、形がティラノサウルスの足跡に似ている葉（トウカエデ）を教えてくださいました。そこから興味をもち、遊戯室にたくさん葉を並べて、ティラノサウルスの足跡でストーリーを作る遊びをした。さらにそこからティラノサウルスをグループで製作することになり、豊かな遊びの広がりを楽しむことができた。

## <活動の様子>



## 5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

・3歳児にとっては見るもの触れるものすべてが初めての経験で、驚きやうれしさ楽しさ、不思議さでいっぱいであった。「自然」では特に幼児の「不思議だな」「きれいだな」と思う気持ちを大切に、一人一人が感じている思いに共感することを大切に。また、様々な体験や経験ができるよう、環境を計画的に整えていくことの大切さにも気付いた。

・家庭で自然物に触れる経験が少なくなっているからこそ、園で経験できる場を意識的に設けることが大切であると感じた。野菜のなり方や、実の部分だけでなく葉が食べられること、様々な食べ方の提案を幼児だけでなく保護者にも丁寧に伝え一緒に育てていく経験が、今後の幼児の豊かな学びにつながる事が分かった。また、生きているものはいつか死んでしまうことに体験を通して実感できることの大切さに気付いた。ビオトープや農園という身近な環境の中で季節ごとの違いや移り変わりを感じながら過ごすことで、より自然への興味関心が高まることに気付いた。

・園内の自然環境だけではなく、園外の自然豊かな場所に出かける機会を計画的に設けたことで、幼児の自然への興味を高めることができた。地面いっぱいの木の実や見たこともないほど大きな葉など、思わず触れてみたくなるような環境を教師が見逃さず、遊びや活動に取り入れることの大切さに気付いた。また、その直接体験をさらなる学びの広がりへとつなげるためには、環境構成と援助の工夫が大事であることも学んだ。

以上